

第 17 期皇帝位決定戦（最終日）レポート 2017/2/12

執筆：吉田 彩乃

皇帝位決定戦最終日。

昨日も今日も、差し入れを片手に会場に足を運んでくれた一般の方がいた。

九州リーグにもずっと参加してくれているのだが、日頃からとても熱心で、麻雀に対する気持ちが強いのが感じ取れる。

そして、毎年必ず皇帝位戦を最初から最後まで観戦してくれる。

私はとても嬉しかった。

九州本部を支えてくれているのは、こういう方々なのだと思う。

選手が集まってきた。

昨日の疲れなどまったく感じさせない、4名の対局者。

今日で今期の皇帝位が決まるんだ…そう思うと、何故だか私がドキドキしていた。



5 回戦開始時

浜上 +55.8p 塚本 +48.2p 安東 ▲17.3p 中尾 ▲86.7p

5回戦(起家から浜上、安東、中尾、塚本)

東1局0本場 親浜上 ドラ 

塚本、8巡目に以下の牌姿。



塚本




ここで決めてしまうかと思った。

しかし、12巡目に表示牌の  が浜上から打ち出される。

これを塚本がポン。

 と  のシャンポン待ちでテンパイ。

そして13巡目に浜上が打ち出した  を安東がポン。

安東



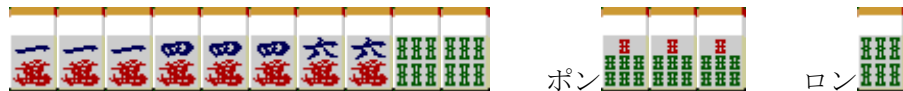
浜上は一手変わり 3 4 5 の三色のピンフテンパイ。

浜上



開局から三者がぶつかる形となった。

15巡目、安東から  を打ちとったのは塚本。



2,600 のアガリとなった。

そんな中、塚本から「ツモ」の発声。



3,000/6,000 の大きなアガリをものにする。

牌譜を見て、私はとても驚いた。

塚本の配牌

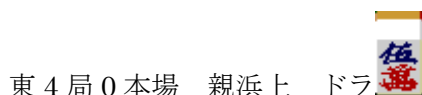


ここから 3 回のツモ切りを除き全て有効牌を引き入れ、9 巡目にテンパイしたのだ。

仕掛けるという行為は、時に残酷な結果をもたらす。

これはあくまで結果論だが、紛れもない事実。

この配牌を 9 巡の間に、2 人の仕掛けによってハネ満の手に進化させたのだ。



東 4 局 0 本場 親浜上 ドラ

親の浜上の配牌



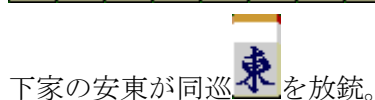
打、次巡を引き入れて打。



浜上の河はとなる。

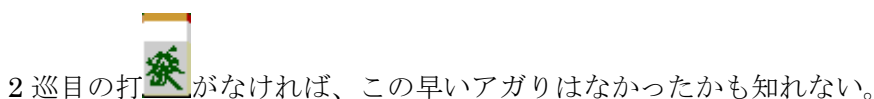


5 巡目、上家の塚本からを仕掛け、テンパイ。



下家の安東が同巡を放銃。

浜上は 12,000 をアガる。



2 巡目の打がなければ、この早いアガリはなかったかも知れない。

こういう手順を、この 2 日間で何度も見た。

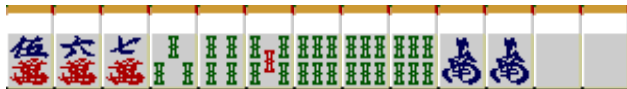
私が一番勉強になったと思うのが、浜上、塚本の染め手を作る際の手順だ。

南1局0本場 親中尾 ドラ



ここで、浜上が勝負にでる。

今皇帝位戦で、初めてリスクを背負った立直を打つ。



絶対おりにないであろう中尾の親番で、役牌シャンポン待ちのリーチ。

まだ親番もあり 24,000 持っている浜上が、このリーチを打つイメージはなかった。

だが、ここはリーチを選択。

今まで慎重に戦っていた浜上が、リスクを背負ってでも戦わなければいけないと判断したのだ。

中尾と浜上の2人テンパイで流局したが、浜上の意思を感じる1局だった。

同1本場、中尾が6,000オールをツモアがる。



中尾も、まだ諦めるわけにはいかないのだ。

安東



安東はずっと苦しい展開だった。

勝負手もなかなかアガりに結びつかず、アガれたとしても次に繋がらない。

流れを変えようと果敢に仕掛けてもアガれず。

リーグ戦ならば耐えられるが、今日優勝が決まるというこの日に、まともに戦わせてもらえないのは本当に苦しかったであろう。



塚本の狙い通り、7回戦は塚本がきっちりトップをとり、浜上は痛恨のラス。
あと1回というところで、塚本が浜上の上に立った。

7回戦成績

塚本 +15.0p 安東 +9.4p 中尾 ▲8.1p 浜上 ▲16.3p

7回戦終了時

塚本 +74.2p 浜上 +62.0p 中尾 ▲65.4p 安東 ▲70.8p

最終戦(起家から浜上、中尾、安東、塚本)

泣いても笑ってもあと一回。

対局者達の表情からも、もう余裕は感じられない。

会場にはたくさんの観戦者が集まっていた。




皆、麻雀の楽しさも苦しさもわかっている九州本部の仲間。
4人の戦いを最後まで見守ろうと、こんなにもたくさんの方が集まってくれた。




連盟の規定により、最終戦の座り順は暫定2位の浜上が起家、暫定1位の塚本が北家。
2人のポイント差は12.2p。
ポイント状況的に、塚本と浜上の一騎打ちとなりそうだ。



いよいよ最終戦が始まる。

開局からドラマがあった。


東1局0本場 親浜上 ドラ 

先にテンパイを入れたのは塚本。

7巡目に  と  のシャンポン待ち、 なら出アガリ出来る。

そして次巡  を引き入れ、打  でリーチ。

塚本



塚本は自分で浜上の親をおとしにいったのだ。

字牌が簡単に出てくる場況でもなく、自分で戦うのならば、リャンメン待ちでのリーチが最善だと判断した。

しかし浜上も黙っていない。

9巡目、タンピン高めイーペーコーの形でテンパイ、そしてリーチ。

浜上



浜上にとっても、塚本から直接点棒を奪えるチャンス。

2人ともツモる手に力が入る。



塚本が自身で2枚使っている三龍を掴み5,800放銃。

1局で順位が入れ替わった。



続く東1局1本場、13巡目に塚本が發をポン、ドラの八龍単騎のテンパイ。

塚本



ポン



しかしすぐ初牌の東を掴まされてテンパイを崩す。



七対子のイーシャンテンだった浜上は最後のツモでテンパイ、東を勝負してドラ単騎のテンパイ。

この局は浜上の1人テンパイとなる。

浜上



東2局、塚本が1,300/2,600をツモあがり、差を縮める。




そして迎えた東4局1本場 親塚本 ドラ




この時点での2人の点棒状況は浜上 35,600 塚本 26,200。

塚本は7巡目七対子のイーシャンテン。

塚本



10巡目に安東が打ち出した  をポン。

11巡目に浜上から打ち出される  をポン、  と  のシャンポン待ちテンパイ。

塚本



浜上も 13巡目にテンパイしヤミテンを選択。

浜上



同巡、安東からリーチ。

安東





ここでも三者がぶつかる。

見ている者も、固唾をのんで見守る。

ここでアガリをものにしたのは浜上。




 を力強くツモり、500/1,000 は 600/1,100 のアガリとなる。

南1局0本場 親浜上 ドラ 

浜上が 10巡目にリーチ、みごとツモアガリ 2,000 オール。

持ち点を 44,900 まで伸ばし、塚本との点差は 26.8P。


そして迎えた南1局1本場 親浜上 ドラ 

浜上



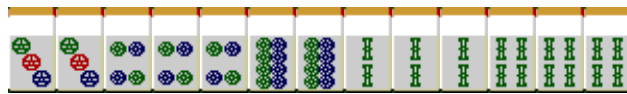
ドラが対子のこの配牌を見て、これを決めれば浜上の優勝が決まるのではと思っていた。

12巡目、安東からリーチが入る。そのときの宣言牌は。

これを浜上が仕掛け、カンの聴牌。



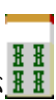


しかし、この局面で安東がリーチをしてくるということは、高打点の可能性が高い。実際安東はツモり四暗刻のリーチだった。





安東は2日を通して本当に苦しい展開だった。耐えて耐えて、それでも浮上のきっかけは掴めず。そんな安東の、渾身のリーチだった。


そして、浜上を追いかける塚本も三色のテンパイ、ここは勝負とリーチ。




浜上がをツモり打で待ちかえ、次巡ツモは裏目のツモってくる。このアガリ逃しは浜上に危険を知らせてくれていたはずだった。

しかし、安東のロン牌であるをツモ切り、12,000は12,300の放銃となった。

本来、安東のツモであったを食い取り、放銃してしまう結果。追いかける立場ならまだしも、この放銃は罪が重いと、後に浜上が語ってくれた。


7回戦まで我慢のきいた麻雀を打っていただけに、このは私もとめてほしかった。しかし、翌日浜上のいう言葉を聞いて、やはり彼は素敵な打ち手だと感心した。

「あのを、九州本部を引っ張ってきた自分が打つなんて許されない。今まで競技麻雀を打ってきた中で、一番ひどい放銃をした。観戦してくれている皆に、こんな麻雀を見せたかったんじゃない。」



彼が背負うものは、私が想像しているものなんかより何倍も、何十倍も大きい。
十数年、彼は九州本部に身を捧げてきた。
だからこそ、こんなセリフが言えるのだろう。
私はやはり九州本部が、そして浜上が大好きだ。

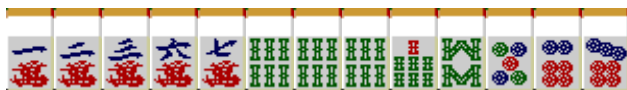
最終戦が始まる前から、私はすでに泣きそうになっていた。
叶わないとわかっていながらも、皆に優勝してほしいと願ったりもした。
見ている私がこんなにも苦しいのだ。
対局者は想像をはるかに超える苦しみの中、戦い抜いたのだ。

そして迎えたオーラス 1 本場(R1) 親塚本 ドラ 。
各自の持ち点は

浜上 31,600 中尾 21,200 安東 41,100 塚本 25,100
あんなにあった点差は、6,500 点差にまで縮まっていた。
トータルポイントは、浜上が 2.3p 上をいく。
塚本はテンパイ必須、浜上はアガれば優勝が決まる。

塚本のリーチを受け三者はおりる。塚本 1 人テンパイ。

塚本



リーチ 流局

続く 2 本場、トータルポイントで塚本が浜上を捲くり、0.7p 上に立つ。
しかしテンパイしてないと、浜上がテンパイしていたら負けてしまう。
ここも塚本が意地を見せ、1 人テンパイ。

3 本場、ここへきて浜上の条件が厳しくなる。

浜上 29,600 中尾 19,200 安東 39,100 塚本 30,100 供託 2.0

ツモアガリ、塚本からの出アガリは無条件優勝、中尾からは 7,700 以上、安東からは 3,900 以上の点数が必要。

そして、浜上 1 人テンパイでも塚本の優勝という条件。

浜上の上家に座る塚本も、苦しきのあまり顔を歪ませる。

塚本と浜上の「苦しい、勝ちたい」という心の声が会場いっぱい広がる。

観戦者の「頑張れ」という心の声も会場いっぱい広がる。

浜上はテンパイすることなく、全員ノーテンで第 17 期皇帝位決定戦は幕を閉じた。

最終成績

優勝 塚本 +78.3p

2 位 浜上 +57.6p

3 位 安東 ▲53.7p

4 位 中尾 ▲84.2p

塚本が優勝者インタビューでこう語っていた。

「昨年、やるべきことをやれずに準優勝だった。今年は自分のやれることを全てやって、ようやく先輩方に追いつくことが出来ました。」

対局者をリスペクトしているからこそ、自分の全てを使って戦い抜き、見事優勝を勝ち取った塚本。

本当におめでとうございます。



そして、対局者の皆さん。

2日間お疲れ様でした。

一番近くでこの皇帝位決定戦を見届ける役目を私にさせてくれて、ありがとうございました。

皆さんの戦う姿は、とてもカッコよかった。

この2日間のことは、絶対に忘れません。

拙いこの観戦記を見て下さった皆さんにもお礼を言わせて下さい。

本当にありがとうございました。

日本プロ麻雀連盟 九州本部 吉田 彩乃